

6 種子(少花粉)

当研究所では、毎年、所内少花粉スギ及び同ヒノキ採種園*で採取された種子(図-16、-17)を岡山県山林種苗協同組合に配布し、同組合から種子の配布を受けた各組合員が苗木生産を行い、これが山行苗として出荷される仕組みとなっています。

コンテナ苗に使用される種子については、種子重量(100粒重量)、または種子1g当たりの粒数と発芽率*の関係から、特に少花粉ヒノキの場合、種子(重量)が大きくなるのにしたがって、発芽率も高くなる傾向がみられます(図-18~21)。



図-16 所内少花粉スギ採種園と採取した乾燥中の球果及び種子
(左側：少花粉スギ採種園 右側：採取後、乾燥中の同球果と種子)



図-17 所内少花粉ヒノキ採種園と採取した乾燥中の球果及び種子
(左側：少花粉ヒノキ採種園 右側：採取後、乾燥中の同球果と種子)

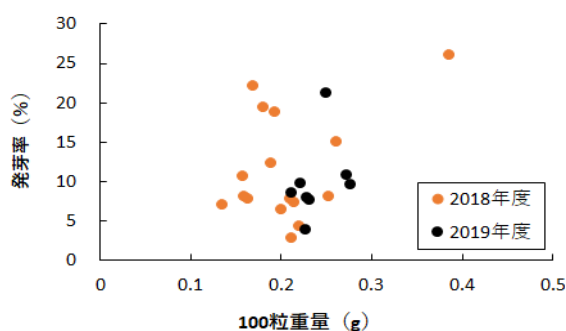


図-18 少花粉スギの種子重量と発芽率の関係

注. 図中の各データは品種(個体)が異なる

(説明)

少花粉スギでは、100g粒重量と発芽率の間に相関は認められません(種子の大きさは発芽率に関係ない)

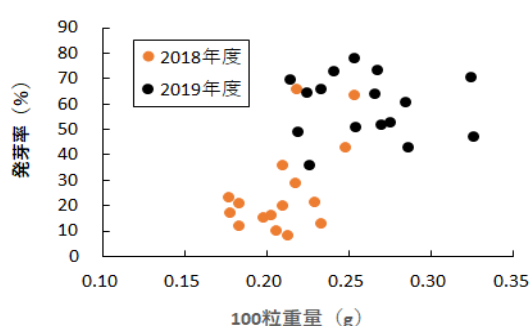
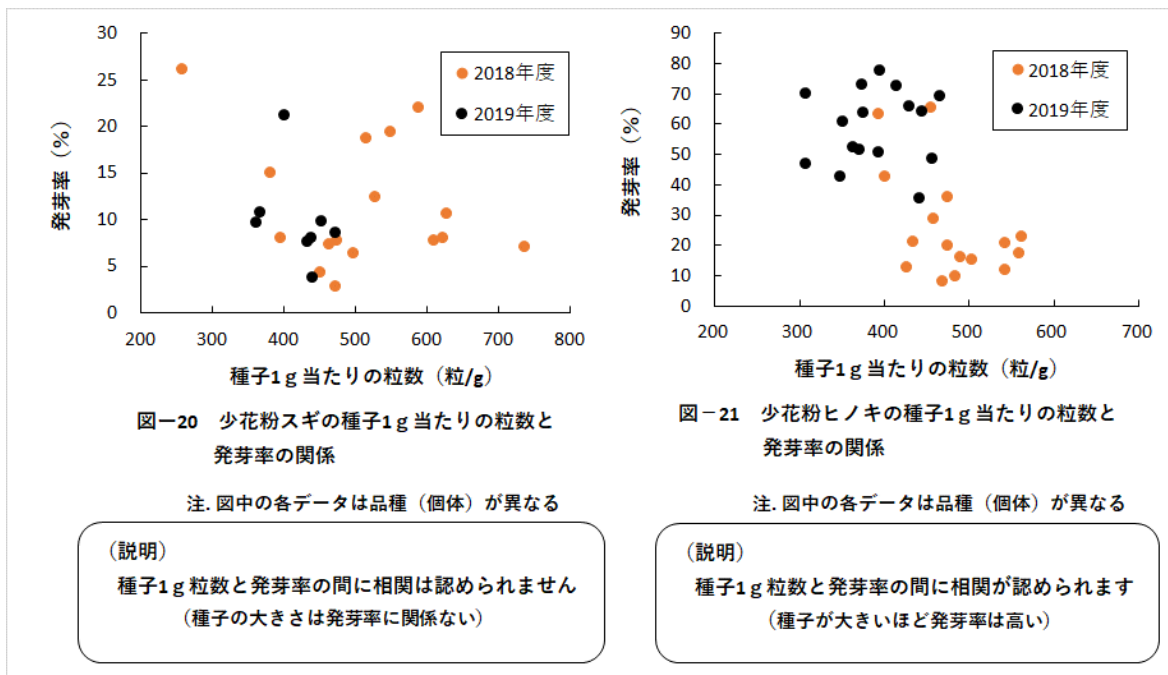


図-19 少花粉ヒノキの種子重量と発芽率の関係

注. 図中の各データは品種(個体)が異なる

(説明)

少花粉ヒノキでは、100g粒重量と発芽率の間に相関が認められます(種子が大きいかほど発芽率は高い)



7 トレイの設置方法

トレイ設置方法として、既存の資材を活用し、生産者自らトレイ台を設置しているのが一般的です。鋼管、もしくは鉄パイプとコンクリートブロックを組み合わせたものをよく目にします(図-22、-23)。当森林研究所の場合、鉄パイプ(直径19mm、長さ5.5m @1,580円相当)を使用しています(図-24)。いずれの方法も、空中根切り*を想定しています。逆に、トレイを直接地面に設置しますと、コンテナ苗の根が地面(キャビティ外)に出てしまいますので注意が必要です。なお、トレイ台の高さは膝の高さ程度あれば、トレイの運搬等の作業性は高くなります。



図-22 軽天材を使用したトレイ台
(豊並樹苗生産組合)



図-23 ハウス用ビニベットを使用したトレイ台
(豆原山林樹苗農園)



図-24 鉄パイプを使用したトレイ台
(県森林研究所内)